



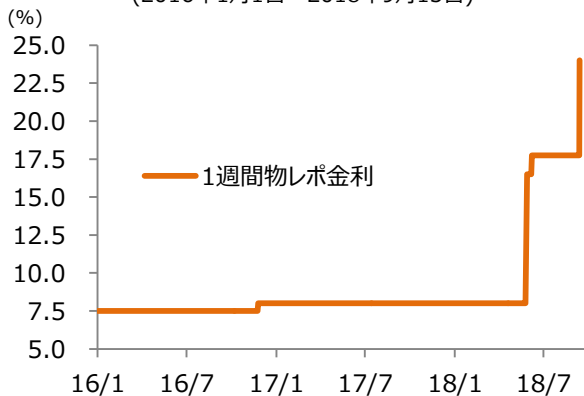
トルコ -予想を上回る大幅な利上げを実施-

POINT 政策金利を24.0%に引き上げ

トルコ中央銀行(以下中銀)は、9月13日に開催した金融政策決定会合で、主要な政策金利である1週間物レポ金利を6.25%引上げ24.0%としました。事前予想では3~4%程度の利上げ幅であったことから、市場では今回の利上げ幅について好意的に受け取られているようです。日本時間9月14日10時30分時点で、トルコリラは1米ドル=6.135トルコリラ、1トルコリラ=18.233円となり、ともに大きく反発しました。

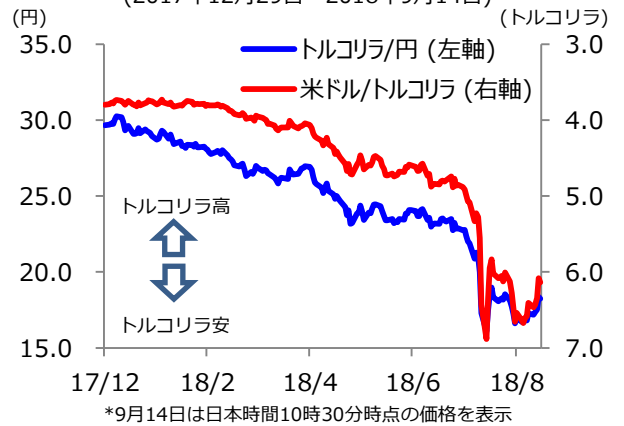
- 1週間物レポ金利の推移 -

(2016年1月1日~2018年9月13日)



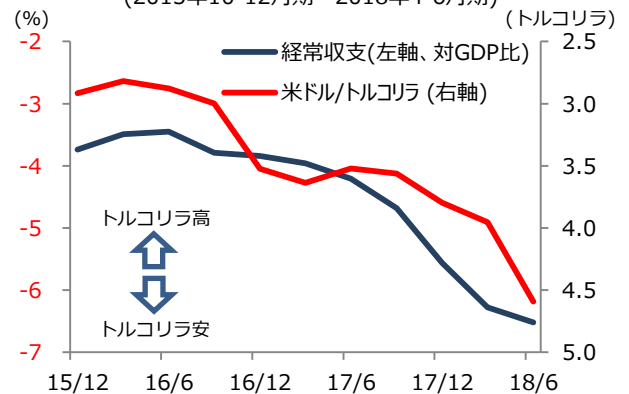
- トルコリラの推移 -

(2017年12月29日~2018年9月14日)



- 経常収支とトルコリラ(対米ドル)の推移 -

(2015年10-12月期~2018年4-6月期)



今後の見通し 経済指標の改善に期待

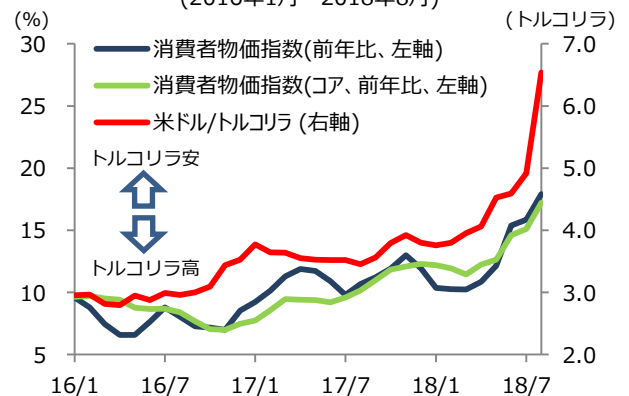
エルドアン大統領は今回の利上げの発表前に、「インフレが発生したのは中銀の間違った政策によるもので、金利を引き下げるべきだ」と発言し、中銀への介入を続けていましたが、今回の利上げで中銀の独立性、中立性が守られることとなりました。中銀は今回の会合で「インフレ見通しが大きく改善するまでは引き締め姿勢を断固として維持する」と表明し、中銀への信任回復をアピールしました。

一方で、対米関係の悪化やインフレ率の上昇等がトルコリラを不安定にさせる要因であることに変わりはなく、それらを改善するには相応の時間を要すると見られます。

エルドアン大統領の中銀に対する干渉が引き続き見られる中、今回の利上げは、トルコリラの一定のサポート要因になると見られますが、対米関係やインフレ率の上昇等が意識される度に、今後もトルコリラは不安定な動きとなる可能性があります。

- インフレ率とトルコリラ(対米ドル)の推移 -

(2016年1月~2018年8月)



出所：Bloomberg